

北公民館

愛護部演劇鑑賞会を終えて

岡田校区愛護部連絡協議会 高市 文

岡田校区愛護部連絡協議会では、10月27日(土)に岡田小学校体育館で、劇団「風の子」の皆さんによる「お祭りどんぶり」鑑賞会を開催しました。

公演前に中学校の生徒さんに、ポスターの作成をお願いしました。「獅子舞」や器の「どんぶり」など題名にあわせたものが中心で、楽しく表現されたポスターでした。

一般的に「祭り」とは神社の祭りをさし、記念、宣伝、祝賀などのために行うものと



▶子どもの心にも大人の心にも多くのことをうたててくれた演劇

言われていますが、公演での「祭り」は、「祭り」そのものの空間を表現したものであり、「どんぶり」とは、深く厚い陶器の鉢を思い浮かべますが、それは芝居で着ている紺色の衣装のことでした。

今の遊びである室内でのテレビゲームやパソコンで、電子画面に向かって遊ぶことが主流となっている子どもたちが、人間同士でふれあって遊ぶことの重要性を、大人たちも改めて見つめ直すことが必要であることを、この公演で思い出させてくれたと思います。また、この公演は、アメリカでも行われて、遊びを通じて



▲静かに鑑賞するみなさん

▼ワークショップで夢中に遊ぶ子どもたち



て言葉など全く障害にならず、完璧だったとのことでした。それは、日本の大衆芸能と言われる遊びなどに親しんでいない今の子どもたちと同じではないでしょうか。

公演後、遊びのワークショップを開いていただきました。昔、私たちも馴染みだ「ケン玉」「コマ」「お手玉」などに、子どもたちがあれば目を光らせて楽しむとは思いませんでした。これらの遊びを通じて、これからの自分自身を再発見していける機会となれば幸いと感じます。

最後に、いろいろ協力してくださった皆様ありがとうございました。また、来年の演劇鑑賞会を楽しみにしたいと思います。

人権・同和教育シリーズ 第229回

人権感覚を磨くために

北伊予中学校教諭 今村 善也

先日、町内教職員同和教育研修会で、授業を公開する機会がありました。「小春日和」という結婚問題を扱った資料をもとに、差別や偏見のない理想社会を実現していくことをねらいに実施しました。

中学生にとって、結婚の問題はまだまだ現実感に乏しく、さらに親の立場に立って考えるなどや難しいところもあったのですが、生徒たちは真剣に考えて意見を述べていました。最後の感想では、「みんな同じ人間なのに、差別をするのはおかしい。」「自分は、今まで差別について考えたことがなかったが、もっと正しい知識を知らなければならぬと思った。」「自分の身近なところから、差別をなくしていくようにしていきたい。」

といった感想が書かれており、大変頼もしく思いました。もちろん、日常での実践力に結びつかなければなりません。

その後の、指導者研修会で教わったのですが、学校にお

ける同和教育にかかわる差別は、同和教育が始まってから大きく減少し、今ではかなり少なくなってきたというそうです。正しい知識を持つことが、正しい判断につながっているのだと思います。

今の時代はさまざまな刺激があり、ともすると視線が人間よりも物質的な欲望や快楽に向きがちで、他者に対する思いやりの心が失われているように感じられてなりません。児童虐待などはその典型でしょう。私たち大人も、子どもたちに負けないように、人権感覚を磨いていかなければならないのではないのでしょうか。各小中学校での校区别懇談会や地区別の巡回学習講座、人権フェスティバルなどさまざまな機会があります。

「世界全体が幸福にならなければ、個人の幸福はあり得ない」こう語ったのは、宮沢賢治でした。人権に対する感覚を高め、人の痛みや苦しみのわかる、そして手助けのできる人間になりたいものです。